

埼玉県立 小児医療センター だより

●埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

Tel▷048-758-1811 Fax▷048-758-1818 E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp

URL▷<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/q04/>

日本医療機能評価機構認定病院



▲当院のシンボルである『カリヨンの鐘』とセンター本館

センターだより 第1号 ご案内

- センターだより再開にあたって 病院長 中村 譲 ……p.2
- 小児がん拠点病院指定を受けて ……p.3
- 部門紹介 在宅支援相談室 ……p.4～5
- コメディカル紹介 放射線技術部 ……p.6
- お知らせ ……p.7～8
- はじめて当センターを受診される方へ・アクセス ……p.8

センターの基本方針

- 1 質が高く、信頼される医療を行います。
- 2 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。
- 3 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。
- 4 子どもの人権を尊重します。



～こどもたちの未来は私たちの未来～

センターだより再開にあたって

なか むら ゆずる
病院長 中 村 譲



日頃当センターをご利用いただき誠に有難うございます。

しばらくの間休刊しておりました、センターだよりをリニューアルして再開する運びとなりました。つきましては、多くの職種の職員に参加してもらい、読者の皆様のお知りになりたい情報を広く掲載していきたいと考えておりますので、ご意見がございましたらお寄せいただきたいと思います。

今回は再開第1号として、現在のセンターの現状をお知らせいたします。

1. どの位の職員が働いているの？

常勤職員538名（看護師359名、医師・歯科医師65名、臨床検査技師28名、診療放射線技師17名、薬剤師14名、臨床工学技士・理学療法士・作業療法士・視能訓練士・臨床心理士・言語聴覚士・栄養士・看護助手計29名、事務職26名）

更に非常勤、委託職員を含めると850名の職員がセンターを支えています。

2. どの位の患者さんを治療しているの？

外来患者さん 年間131,703名（1日平均539.8名）が来院されました。

予約が取りにくく申し訳ありません。また、診察までお待たせして申し訳ありません。

1日の予約患者さんを減らせば待ち時間は少なくなりますが、予約が取りにくくなりますので頭を悩ませております。

入院患者さん 年間5,471名の方が平均15日入院されました。一日当たり平均226名が入院されています。今年度は麻酔科医が退職したため、手術を待っておられた患者さんには大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。4月からは常勤医を確保いたしましたので、救急・新規の患者さんに迅速に対応させていただきます。

救急患者さん 年間4,440名が搬送され、うち1,836名が入院されました。当センターは、入院の必要な重症患者を診療する使命を有した小児病院であります。まずはお近くの診療所か、夜間休日であれば近くの一次救急診療所を受診いただきたいと思います。

3. 病院は災害時に大丈夫？

当センターは開院後30年が経過しておりますが、昭和56年以前の旧建築基準により建築されているために、平成27年度までに耐震化することが求められています。現在地での耐震化も検討いたしましたですが、工事期間中は入院制限をせざるを得ないなど、病院機能の低下が予想されるため、移転建て替えが必要との最終決定がされました。新病院では周産期母子医療体制、小児救命救急・集中治療体制の整備が、全県的観点で計画されています。しかしながら、高度医療の充実と並行して、現在地での診療が望ましい患者さんのための病院機能を検討中であります。

高度医療と患者さんに寄り添う医療の両立に努力していきたいと思っております。

〔データは平成23年度〕

「小児がん拠点病院指定を受けて」



副 病 院 長 ^{はな}花 ^だ田 ^{りょう}良 ^じ二

血液腫瘍科 科長兼副部長 ^{こう}康 ^{かつ}勝 ^{よし}好

1月31日、厚生労働省の有識者検討委員会で、県立小児医療センターを含む全国15病院が「小児がん拠点病院」に選定されました。2月8日に厚生労働省から正式な指定を受けました。

1 小児がん拠点病院が整備される理由

- ◆「がん」は小児の病死原因の第1位で年間2千～2千5百名の患者さんが発生しますが、扱う病院が全国約200施設に分散し、診療レベルに格差があります。
- ◆平成24年5月、国は「がん対策推進基本計画」で、小児がん対策を重点課題に掲げ、患者さんを集約して質の高い医療を提供するために、地域における小児がん治療の中核的病院を整備することとしました。

2 選定の方法

- ◆有識者検討委員会では、全国を北海道、東北、関東、東海・北陸・信越、近畿、中国・四国、九州の7ブロックに分け、ブロックごとに拠点となる1～5病院を選定しました。
- ◆全国37病院から申請がありましたが、書類選考で22病院に絞り、さらに申請病院によるプレゼン、聞き取り調査等を通じて、15病院を指定しました。
- ◆埼玉県立小児医療センターについては、これまでの診療実績（過去3年間の小児がん患者数全国1位）や、岩槻特別支援学校との連携による復学支援の取組などが高く評価されました。

これまでに多数の患者さんをご紹介いただいた地域の先生方にこの場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

3 指定後の取組み

- ◆選定された施設は、半年以内にブロック内にある医療機関の役割分担や連携方法を盛り込んだ計画を提出し、半年後に計画の進捗状況の検証を行います。
- ◆関東地方の他の小児がん拠点病院および小児がん診療施設と連携しながら、埼玉県内はもとより、関東地域全体の小児がん診療のレベル向上に全力を尽くします。

先生方のますますのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



花田 良二
副病院長
1977年 東京大学卒

+専門
小児血液疾患、小児がん



康 勝好
血液腫瘍科 科長兼副部長
1992年 東京大学卒

+専門
小児血液疾患、小児がん

< 部門紹介 >

在宅支援相談室の紹介

在宅支援相談室は、平成16年に看護部の1セクションとして独立しました。現在は副師長、スタッフ2名の3名で活動をしています。

在宅支援相談室の役割は、在宅療養する子どもと養育者を対象に地域との連携を推進し、センター各部門のスタッフと協働して在宅での療養環境の向上を幅広く支援することです。

業務としては、①指導・相談、②訪問看護、③退院調整、④地域連携を中心に行っています。



取り組みのご紹介

■ 相談業務

在宅療養を行うご家族からの医療ケアや予防接種などの医療に関する相談、哺乳状況や便秘など育児全般的な相談や就学・就園に関する相談に対して、医師や医療ソーシャルワーカー（MSW）などと連携し対応をしています。

1日平均20～25件、年間約6,000件の相談を受けています。

■ 指導業務

在宅療養を行っているお子さんにご家族へ、外来受診時に哺乳・吸引・吸入・血友病患者さんの自己注射の指導を行っています。また、人工呼吸器管理・気管切開管理・胃瘻管理を行っているお子さんにご家族には、外来受診時に気管カニューレ交換を実際に行ってもらい、手技の再確認や問題が発生したときの対処方法を指導しています。

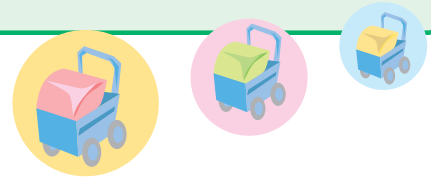
■ 退院調整

在宅療養が必要なお子さんにご家族の皆様安心して日常生活を送っていただけるよう、MSW・臨床心理士と病棟へ定期訪問（病棟ラウンド）を1週間に1回行っています。在宅へ移行する患者さんの把握や地域との連携・社会資源の必要性などについての情報を共有し、早期に在宅へ移行できるように調整や介入を行っています。



在宅人工呼吸器を装着している患者さんを、自家用車に移動するシミュレーションの様子

在宅人工呼吸器管理が必要な患者さんをはじめ、医療機器を持ち帰る場合など、自宅での生活がイメージしやすいように、退院前に車への移動やベビーカーへの医療機器の載せ方のシミュレーションを行っています。



■ 地域連携

地域と病院の連携の窓口として、地域の保健・医療及び福祉・教育機関と連絡を取り、情報を共有することで、在宅療養での支援体制を決定しています。地域との関わりでは、小児看護の知識・技術の向上を目的に、地域での講演や訪問看護ステーションの看護師を対象とした「小児在宅看護研修会」を平成16年度から毎年実施しています。

【小児在宅看護研修会の講演の様子】

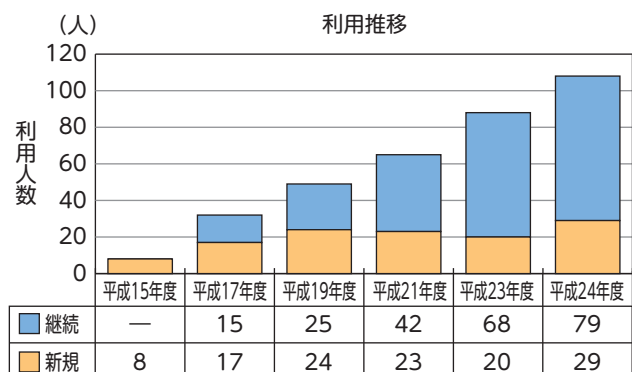


研修会は、地域訪問看護ステーションの看護師・特別支援学校の看護教諭を対象に開催しています。平成24年度は30名の参加をいただき「精神疾患のあるご家族への対応」をテーマに精神科医師による講演とグループワークを開催しました。グループワークでは活発に意見を交換し、参加者の皆さんから、有意義な研修だったとの感想をいただきました。

【訪問看護ステーション導入件数推移】

在宅療養を行っているお子さんへ、訪問看護ステーションと連携が取れた件数は、平成15年度は8件でしたが、平成24年度2月末現在で108件になりました。

医療的ケアを必要としている子どもに対応してくださる訪問看護ステーションも増えて、連携が広がってきています。



※平成24年度は2月末までのデータです。

コメディカル
紹介

Department of Radiation Technology

放射線技術部

放射線技術部では、放射線、超音波、磁気などを利用して、病気の画像診断や治療を行っています。

- **単純X線検査**…いろいろな部位のX線撮影。
- **造影透視検査**…造影剤を体の中へ注入して胃腸や膀胱などの形態や動きを観察。
- **超音波検査**…超音波を用いて臓器の形態だけでなく、動きや血流を観察。
- **骨塩定量検査**…腰椎、大腿、前腕の骨密度を測定（小児領域では薬剤投与の指標となる）。
- **磁気共鳴イメージング（MRI）**…放射線を使わずに、強い磁石と電波で体の断面を撮像。
- **X線コンピュータ断層（CT）**…X線を体の周り一周させて体の輪切り像を撮影。
- **核医学（インビボ）**…微量の放射性医薬品（RI）を体中に投与し臓器の形態や機能の検査。
- **核医学（インビトロ）**…血液や尿に極微量のRIを含んだ試薬を反応させ検体を検査。
- **血管撮影**…血管にカテーテルを入れ、心臓や脳の血管の形態や血流を観察。
- **放射線治療**…非常に高いエネルギーのX線や電子線を用いて放射線による治療。

以上の検査を行うために、当センターでは放射線科医師、診療放射線技師、看護師等のスタッフが協力して、当センターの基本方針である「質が高く、信頼される医療の実現」に向け日々努力をしています。



後方中央、松田部長ほかスタッフ一同



放射線科医師

- ❖ 先天性の心臓疾患の中で心房中隔欠損症は左右の心房を仕切る壁に穴があいている病気です。当センターでは、この手術を外科的に行わず、血管撮影装置下で特殊な器具（アンブラッツア閉鎖栓）をカテーテルの先端に付け心臓の穴にはさみこむように治療を行っています。この方法は限られた施設のみ可能で、非常に高度で安全な治療技術の提供に努力しています。
- ❖ MRI装置は1.5Tで成人と同様の高磁場の装置を用いており、CT装置は128スライスのマルチディテクタ装置を用いて3次元のデータを取得することが可能です。しかし、小児でこれらの装置を用いる場合は眠らせる必要があります。特に最近では小児のMRI検査で2割の病院で麻酔中に呼吸停止が起きたという新聞報道がなされました。しかし、当センターでは眠らせたお子さんの管理は全例モニターを装着しており、このような事故は過去に一切起きていません。また検査前日からご家庭で入眠の準備を行うようにしており、安全で確実な検査が行えるよう努力をしています。
- ❖ 福島原子力発電所の事故等の影響を受け、特に子供さんに対する被ばくが心配という声を医療現場でも良くお聞きします。従来から当センターでは小児の放射線検査での被ばく低減という目標に向けて努力して来ましたので、全ての検査で安心していただける検査技術を提供できます。

お知らせ

タンデムマス事業が始まりました

生まれて間もない赤ちゃんを対象に、先天性の病気を早期に発見し、治療につなげていくための検査を行っています。

これまでは6つの病気が対象でしたが、平成24年10月1日から、これ以外にも多くの病気を一度に検査できる検査法（タンデムマス法）を用いることで、19の病気の検査が可能になりました。

～ 検査対象の病気 ～

アミノ酸代謝異常

フェニルケトン尿症
メープルシロップ尿症
ホモシスチン尿症
シトルリン血症
アルギニノコハク酸尿症

有機酸代謝異常

メチルマロン酸血症
プロピオン酸血症
イソ吉草酸血症
(その他4種)

内分泌異常

先天性甲状腺機能低下症
先天性副腎過形成症

糖質代謝異常

ガラクトース血症

脂肪酸代謝異常

中鎖アシルCoA脱水祖酵素欠損症
極長鎖アシルCoA脱水祖酵素欠損症 (その他2種)

小児医療センターが 表彰されました！

昭和39年から続く“埼玉県医学会総会”の第50回記念式典が2月24日、浦和ロイヤルパインズホテルで開催されました。当センターの医学会への功績が認められ、会長表彰を団体として受賞しました。



シアタースタート「ストリングラフィ・アンサンブルコンサート」が開催されました♪

2月25日、院内でコンサートが開かれました。初めて見る楽器（紙コップに弦を通した、手作りの弦楽器）から美しい音色が奏でられ、会場に拍手と笑顔があふれました。演奏に合わせ会場のみんなで一緒に歌ったり手拍子をしたり、楽しいひと時となりました。



主催：NPO法人子ども文化ステーション
演奏：スタジオ・イブ（水嶋一江さんほか）

災害訓練を実施しました

今年度3回目となる、災害対策訓練を2月18日に行いました。「東京湾を震源に埼玉県内で震度6弱の地震が発生した。」との想定のもと、まず病棟内の安全確認、被害状況確認等の後、災害外来部門のトリアージ訓練を行いました。患者さんを連れた親御さんが次々と訪れ、一次トリアージから二次トリアージに進み、必要な情報を記入した黄色や赤色のタグを渡した後、患者さんをそれぞれのブースに案内しました。ここではポータブルのレントゲン装置で撮影したり、応急処置を施したり等、実践さながらの訓練となりました。これらにより、今後の改善点などを再確認することができました。



二次トリアージ後にダミー人形を使って応急処置をしている様子

はじめて当センターを受診される方へ

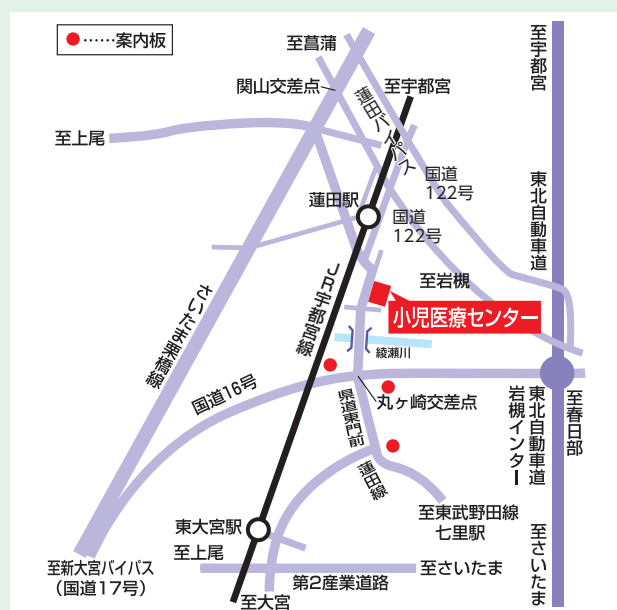
当センターは高度、三次医療を担う専門病院のため、紹介制、予約制になっています。

1 受診のための手続きは・・・

現在のかかりつけ医師に紹介状（診療情報提供書）を書いていただき、☎048-758-1822（一般外来予約専用回線）にお電話下さい。保健発達外来は専用回線 ☎048-758-2165です。受け付け時間は、平日の午前9時～午後5時となります。なお、緊急を要する際は、紹介元の医師から、当センターの担当医師に直接ご連絡いただくこととなります。その際には、☎048-758-1811（代）へお願いします。

2 セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンのご相談も受け付けています。患者ご家族様から直接 ☎048-758-1811（代）へご予約をお願いします。



アクセスについて

◎ 交通機関 の場合：

JR 蓮田駅東口より国際興業バスにて約10分
料金170円。
タクシーでは約5分 料金は800円程度。

◎ 自家用車 の場合：

東北道岩槻ICから、さいたま市（旧大宮）方面へ国道16号で丸ヶ崎交差点を右折し、約500m先右側になります。



埼玉県のマスコット コバトン